

## 【研究ノート】

月報を読む(2) :

## 筑摩書房版現代日本文学全集 月報細目-1

(Browsing Inserted Leaflets (2):  
Tables of Contents of those in Chikuma-Shobo Editions of  
Modern Japanese Literature Volumes -1)

藤 井 哲\* (編)

## 概要

前稿の「月報を読む：序論」(本誌, 2019年3月)では, 月報が逸話的信息を多く保存しているながらも取り扱いが難しく, 利用環境が未整備であるなどと書き並べた. そしてその際に, 筑摩書房が明治以降の作家から作品を集めて1950~70年代に文学全集を繰り返し発行しており, 類似した名称も祟った結果, 数百号分の月報が書誌的混沌に追い遣られてしまったと指摘し, 筑摩版では「各全集について月報細目を作成し, 横断的に索引化する作業が必要になってこよう」(脚注37)との私見を添えた.

ところが筑摩版文学全集の場合, 多くの図書館で月報が保存されており, 古書市場にもよく出るので, 案外簡単に全号が揃ってしまった.それほど手近な月報ならば, それを書誌的に整理した細目を用意することで効率的な活用を促せるであろうと着想した. 記事内容にまでは踏み込まないが, 話題の多様さ,

---

\* 福岡大学名誉教授

執筆者の陣容，使い回しの実態を俯瞰させるくらいの用は果たせるであろう。

### 凡例

- 【全集】別に，各項は本体の『巻次 書名』，月報の[図]，合本された月報の場合には [通しページ]，転載元/先，執筆者名，「記事名」，掲載ページを示すが，月報の各冊毎にノンブル無しの丁も含めてページを想定している。
- 先行掲載への参照では，月報なら ←[図]，記事の場合は ←[図] で示し，また転載先は ⇨[図]，→[図] で参照する。
- 巻次の表示では，例えば全 69 巻 + 『70 月報合本』編成の【現代文学大系】であればその第 1 巻を【70 系 1】のように略記した。
- 資料での漢字表記をなるべく踏襲したために，舊字體と新字体が混在することになった。なおルビは編者の判断で振ったものが多い。
- 紙数を抑えるために，関連性の希薄な埋め草を，また写真・カット類・告知・広告などを原則として記述の対象に含めなかった。

### 【現代日本文學全集】 1953 年 8 月～59 年 4 月 97 巻 + 別巻 2. 【99 全】

※倒産寸前に同社『展望』の編集長であった白井吉見の提案を受け入れたのが大当たりして延べ 1,300 万冊以上を売り上げたため，今日でも月報付きの本体を古書で比較的入手し易い。菊判上製函入で，当時は各巻 350 円であった。

- 『1 坪内逍遙・二葉亭四迷集』 1956 年 8 月 [54]。……⇨【100 全 1】[1]，【143 全 1】[1]。  
河竹繁俊「坪内逍遙の涙」1-3. 瀬沼茂樹「小説學の基石、」3-4. 野間宏「二葉亭の「私と社會」」4-6. 杉森久英「役人としての文三」6-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9-10.
- 『2 尾崎紅葉・山田美妙・廣津柳浪・川上眉山集』 1954 年 7 月 [4]。  
……………⇨【100 全 4】[4]，【143 全 4】[4]。

- 長田幹彦「金色夜叉」1-2. 鷺亭金升「紅葉山人と美妙齋の思い出(七十年の昔)」  
2-5. 廣津和郎「柳浪の神経質」5-6. 塩田良平「眉山と美妙」6-8. 「編集後記」8.
- 『3 幸田露伴集』 1954年5月 ⑪. …………… ⇨ 【100全7】 ⑦, 【143全7】 ⑦.  
辰野隆「幸田露伴」1-2. 三好達治「露伴さんの文学」2-3. 小泉信三「『運命』につ  
いて」4-6. 小宮豊隆「幸田先生のこと」6-8. 「編集後記」8.
- 『4 北村透谷・樋口一葉集』 1956年10月 ⑤⑦. …… ⇨ 【100全8】 ⑧, 【143全8】 ⑧.  
吉田精一「透谷と一葉」1-2. 川合信水「北村透谷君の思ひ出」2-3. 白井吉見「第  
三の聲」3-5. 佐多稻子「樋口一葉のこと」5-6. 關良一「一葉女俠説」6-8. 吉田精  
一(編)「研究書目・参考文献」9-10.
- 『5 泉鏡花・徳富蘆花集』 1955年3月 ⑳. …………… ⇨ 【100全9】 ⑨, 【143全9】 ⑨.  
神西清「鏡花とメリメ」1-2. 里見弴「『照葉狂言』について」2-4. 水谷八重子「あ  
こがれ」4-5. 桑原武夫「蘆花についての見當」5-6. 前田河廣こう・ひろ一郎「蘆花先生と私」  
6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 青木勇「讀者寄稿:植物の薫り」10 [本  
冊のみ]
- 『6 正岡子規・伊藤左千夫・長塚節集』 1955年6月 ㉒.  
…………… ⇨ 【100全11】 ⑪, 【143全11】 ⑪.  
高濱虚子「子規・左千夫・節」1-3. 杉浦明平「子規の俳句について」3-5. 草野心  
平「左千夫寸感」5-6. なかのしげはる「今年の問題」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・  
参考文献」9-10.
- 『7 森鷗外集』 1953年11月 ③. …………… ⇨ 【100全12】 ⑫, 【143全12】 ⑫.  
佐藤春夫「鷗外は果して舊いか」1-2. 田宮虎彦「歴史小説と史傳」2-4. 野田宇太  
郎「『雁』の界限」4-5. 森茉莉「『半日』」5-8. 「編集後記」8.
- 『8 島崎藤村集』 1953年8月 ①. …………… ⇨ 【100全17】 ⑰, 【143全17】 ⑰.  
亀井勝一郎「『破戒』について」1-2. 野間宏「『破戒』に於ける人間自然—『破戒』の  
初版本を讀みて—」2-3. 青野季吉「『新生』について」4-6. 島崎おさ藤助「アルバム風  
な思ひ出の一節」6-8. 「編集後記」8.
- 『9 田山花袋集』 1955年5月 ㉑. …………… ⇨ 【100全20】 ㉑, 【143全20】 ㉑.  
柳田國男「田山のこと」1-3. 上林暁「花袋作品の印象」3-5. 徳永壽美子「『お銀』  
のその後」のち5-6. 田山瑞穂「父のこと」6-7. 「編集後記」7. 吉田精一(編)「研究書目・  
参考文献」9. 井ノ口勝英「讀者寄稿:山本文学 & 金色夜叉と私」10 [本冊のみ].

- 『10 徳田秋聲集』 1955年2月 26. ……⇒【100全22】22, 【143全22】22.  
 丹羽文雄「秋聲の小説」1-2. 川端康成「徳田秋聲氏の『縮圖』」2-4. 和田芳恵「『徴』のころ」4-5. 吉屋信子「本郷森川町」5-7. 徳田一穂「父の思ひ出」7-8. 「編集後記」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9 [→【100全23】]. 岩城<sup>ゆきのり</sup>之徳「啄木の年譜について」10 [→【100全23】]. 粒<sup>つぶほり</sup>針修「讀者寄稿：「高瀬舟」から」11 [本冊の<sub>み</sub>].
- 『11 夏目漱石集』 1954年12月 22. ……⇒【100全24】24, 【143全24】24.  
 長與善郎「文學の品位と「救ひ」とについて」1-2. 荒正人「深淵の文學—漱石はなぜ讀まれるか—」2-4. 尾崎士郎「『夏目漱石』と私」4-5. 木下順二「一つの感想」5-6. 龜井勝一郎「『それから』斷想」6-8. 「編集後記」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献：山本有三・有島武郎」9 [→【100全59&43】]. 「同：夏目漱石」10 [→【100全26】]. 花井章太郎「讀者寄稿：退屈な日に」11 [本冊の<sub>み</sub>].
- 『12 柳田國男集』 1955年1月 24. ……⇒【100全28】28, 【143全28】28.  
 正宗白鳥「柳田氏について」1-2. なかのしげはる「無欲の人」2-3. 堀田善衛「場違いの場から」4-5. 白井吉見「柳田さんの言葉」5-6. 大藤<sup>おおとう</sup>時彦「柳田先生と日本民俗學」6-7. 「編集後記」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 「同：佐藤春夫」9 [→【100全58】]. 「同：岡本かの子・林芙美子・宇野千代」10 [→【100全74】].
- 『13 岩野泡鳴・近松秋江集』 1954年10月 19. ……⇒【100全29】29, 【143全28】29.  
 河上徹太郎「泡鳴の文學」1-2. 寺田透「泡鳴小論」2-4. 田中純「憎まれっ子泡鳴」4-5. 平野謙「近松秋江斷片」5-6. 徳田道子「父のこと」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 「同：志賀直哉」10 [→【100全42】].
- 『14 正宗白鳥集』 1955年9月 37. ……⇒【100全30】30, 【143全30】30.  
 室生犀星「甘くないひと 正宗白鳥」1-2. 青野季吉「正宗白鳥について」2-4. 中村光夫「正宗白鳥の文學」4-6. 堀木克三「日常の白鳥先生」6-7. 「編集後記」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 戸田宏「讀者寄稿：「土」の文學と私」10 [本冊の<sub>み</sub>]. 小栗彦一郎「讀者寄稿：月報を製本して」10 [本冊の<sub>み</sub>].
- 『15 与謝野寛・与謝野晶子・石川啄木・北原白秋集』 1954年11月 20.  
 ……⇒【100全32】32, 【143全32】32.  
 日夏耿之介「對話 明星派」1-3. 奥野信太郎「與謝野晶子の教育觀」3-5. 北原隆太郎「父白秋の思ひ出」5-6. 野村胡堂「若き日の啄木」6-7. 小田切秀雄「啄木作品

- 中ではどの種類が一」8&12. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9-11. 「同: 井伏鱒二」11 [→ 【100全70】].
- 『16 永井荷風集』 1956年1月 43. ……………⇒ 【100全34】 34, 【143全34】 34.  
久保田万太郎「躍進はつづく」1. 奥野信太郎「荷風文学讀法」2-3. 高見順「落魄趣味」3-4. 木村莊八「溼東綺譚挿畫」4-5. 相磯凌霜<sup>あいそ・りょうそう</sup>「荷風先生と雁のモデル」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 太田静一「嘉村夫人のことども」10 [本冊のみ].
- 『17 小山内薫・木下杳太郎・吉井勇集』 1956年4月 47.  
……………⇒ 【100全36】 36, 【143全36】 36.  
北村喜八「小山内薫」1-2. 岡田八千代「兄とだけの話」2-3. 加藤周一「木下杳太郎の位置」4-5. 小堀杏奴「いたはりの眼」5-6. 川田順「吉井勇氏の短歌」6-7. 唐木順三「吉井勇氏のこと」7-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 大原美治「讀者寄稿: 柁の中の嘉村」10.
- 『18 谷崎潤一郎集』 1956年9月 48. ……………⇒ 【100全38】 38, 【143全38】 38.  
吉井勇「若き日の谷崎君」1-2. 三島由紀夫<sup>おほ</sup>「大谷崎」2-4. 高橋義孝「舌の作家」4-5. 武田泰淳「谷崎氏の女性」5-7. 「編集後記」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献: 齋藤茂吉」8 [→ 【100全48】]. 「同: 紅葉・美妙・柳浪・眉山」9 [→ 【100全4】]. 「同: 谷崎潤一郎」10. 牧周平「讀者寄稿: 藤村の作品について」11 [本冊のみ]. 菅原寛「讀者寄稿: あたたかい感覺」11 [本冊のみ]. 和田芳恵「日本文学アルバム」12 [本冊のみ].
- 『19 武者小路實篤集』 1955年5月 31. ……………⇒ 【100全40】 40, 【143全40】 40.  
柳宗悦「武者小路の藝術」1. 中川一政「武者さんの畫」2-3. 汐見洋「記憶を辿って」3-4. 小山清「武者小路氏のこと」5-6. 武者小路實光「思い出すまま」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 岡田芳夫「讀者寄稿: 石川淳について」10 [本冊のみ].
- 『20 志賀直哉集』 1954年6月 43. ……………⇒ 【100全42】 42, 【143全42】 42.  
龜井勝一郎「時任謙作」1-2. 井伏鱒二「尾道の寓居」2-4. 瀧井孝作「志賀さんの繪と書」4-5. 丹羽文雄「志賀さんのこと」5-6. 網野菊「絨毯のしみ」6-8. 「編集後記」8.
- 『21 有島武郎集』 1954年4月 40. ……………⇒ 【100全43】 43, 【143全43】 43.

- 花田清輝「有島文學のバックボーン」1-2. 青野季吉「有島武郎の社會思想について」2-4. 正宗白鳥「『或る女』について」4-5. 吹田順助「『或る女』の書かれた頃」5-6. 有島生馬「武郎の少年時代」6-8. 「編集後記」8.
- 〔22 寺田寅彦・森田草平・鈴木三重吉集〕 1955年7月 〔34〕.  
……………⇒【100全44】〔44〕, 【143全44】〔44〕.  
中勘助「寺田寅彦, 森田草平, 鈴木三重吉 三氏の思ひ出」1-3. 野上彌生子「寺田さんのこと」4. 安倍能成「森田のこと」5-6. 坪田讓治「鈴木先生を思出して」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 永尾武郎「讀者寄稿: 島木健作の作品と私」10 [本冊の<sub>み</sub>]. 山中百合子「讀者寄稿:『くれなゐ』のかなしみ」10 [本冊の<sub>み</sub>].
- 〔23 齋藤茂吉集〕 1953年12月 〔4〕. ……………⇒【100全48】〔48〕, 【143全48】〔48〕.  
土屋文明「隨筆を書き始められた頃」1-3. 川田順「早熟の晩成」3-4. 宇野浩二「齋藤茂吉の散文」4-6. 上林暁「茂吉の歌に寄せて」6-7. 「編集後記」8
- 〔24 高村光太郎・萩原朔太郎・宮澤賢治集〕 1954年7月 〔15〕.  
……………⇒【100全49】〔49〕, 【143全49】〔49〕.  
石井鶴三「彫刻の先覺高村光太郎」1-2. 難波田龍起「高村光太郎氏素描」2-3. 伊藤藤整「萩原朔太郎斷片」3-5. 恩地孝四郎「朔太郎殘影」5-6. 宮澤清六「兄とレコード」6-8. 「編集後記」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 山田千之「讀者寄稿: 藤村師を偲ぶ」10.
- 〔25 里見弴・久米正雄集〕 1956年3月 〔46〕. ……………⇒【100全51】〔51〕, 【143全51】〔51〕.  
辰野隆「里見弴集のために」1-2. 河盛好藏「『自然解』から」2-3. 小津安二郎「名代の味」3-4. 小島政二郎「久米さんのこと」4-6. <sup>こん・ひでみ</sup>今日出海「久米さんの素顔」6-7. 「編集後記」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 山本和男「讀者寄稿: 志賀直哉斷片」10 [本冊の<sub>み</sub>]. 山田千之「讀者寄稿: 人間への郷愁」10 [本冊の<sub>み</sub>].
- 〔26 芥川龍之介集〕 1953年10月 〔2〕. ……………⇒【100全52】〔52〕, 【143全52】〔52〕.  
芥川文「思ひ出すまゝに」1-3. 松岡讓「習作時代の芥川」3-5. 中村眞一郎「芥川龍之介の讀書」5-6. 吉田精一「龍之介と龍之助」6-8. 「編集後記」8.
- 〔27 菊池寛・室生犀星集〕 1955年8月 〔35〕. ……………⇒【100全53】〔53〕, 【143全53】〔53〕.  
正宗白鳥「菊池君のこと」1-2. 小林秀雄「菊池さんの文學」2-3. 永井龍男「自動車のこと」3-4. 佐藤春夫「天成の詩人」4-5. 窪川鶴次郎「親がわり」5-6. 福永武彦「室生さんの若さ」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 上坂信男「讀者

- 寄稿：鷗外への斷想」10 [本冊の<sub>※</sub>].
- 『28 長與善郎・野上彌生子集』 1955年10月 38. …⇒【100全56】56, 【143全56】56.  
柳宗悦「長與のこと」1-2. 北川桃雄「竹澤先生」訪問 2-3. 中村眞一郎「長與氏の意味」3-5. 小宮豊隆「初対面」5-6. 圓地文子「「迷路」の作者」6-7. 「編集後記」7.  
吉田精一(編)「研究書目・参考文獻」9. 島岡清子「讀者寄稿：武田麟太郎の作品を読んで」10 [本冊の<sub>※</sub>]. 古手川秀樹「讀者寄稿：「蠅」と「城の崎にて」」10 [本冊の<sub>※</sub>].
- 『29 水上瀧太郎・久保田万太郎集』 1956年2月 44. ⇒【100全57】57, 【143全57】57.  
佐藤春夫「水上瀧太郎を懷ふ」1-2. 里見淳「本格念願の小説家」2-4. 小宮豊隆「『朝顔』」4-5. 眞船豊「きびしい孤獨」5-6. 戸板康二「猫と風呂敷——人・久保田先生——」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文獻」9. 海原三津夫「讀者寄稿：私小説を讚美する」10 [本冊の<sub>※</sub>].
- 『30 佐藤春夫集』 1954年1月 6. ……………⇒【100全58】58, 【143全58】58.  
奥野信太郎「春夫文學」1-2. 島田謹二「「天才」佐藤春夫」2-3. 堀口大學「その頃の春夫君」3-4. 森田たま「梅散りかかる葱畑」5-6. 檀一雄「姥捨」6-8. 「編集後記」8.
- 『31 山本有三集』 1954年3月 9. ……………⇒【100全59】59, 【143全59】59.  
武者小路實篤「山本有三君」1. 竹内好「日本のブルジョア作家」1-2. 村岡花子「「波」を読んで」2-4. 戸板康二「山本有三氏の戯曲」4-5. 高橋健二「山本有三氏の標記法」6-8. 「編集後記」8.
- 『32 廣津和郎・宇野浩二集』 1955年12月 41. ……⇒【100全60】60, 【143全60】60.  
谷崎精二「廣津と宇野」1-2. 丹羽文雄「廣津さんのこと」2-3. 松田道雄「眞實への忠誠」3-5. なかのしげはる「一刻人」5-6. 原久一郎「若き日の宇野浩二」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文獻」9. 青木勇「讀者寄稿：「ゼーロン」その他」10 [本冊の<sub>※</sub>].
- 『33 豊島與志雄・岸田國土集』 1955年3月 27. …⇒【100全61】61, 【143全61】61.  
辰野隆「豊島・岸田兩君」1-2. 坂口安吾「豊島さんのこと」2-4. 川口篤「困つた先生」4-5. 三好達治「思出すこと三四」5-6. 岸田今日子「父が怒つたこと、泣いたこと、笑つたこと」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文獻」9. 光本光徳「讀者寄稿：「伸子」について」10 [本冊の<sub>※</sub>].
- 『34 加能作次郎・葛西善藏・牧野信一・嘉村礒多集』 1955年9月 36.  
……………⇒【100全62】62, 【143全62】62.

- 瀧井孝作「加能作次郎について」1-2. 宇野浩二「思ひ出すままに一葛西善藏のこと」  
2-4. 尾崎士郎「牧野の孤獨」4-6. 橋崎勤「嘉村さんのこと」6-7. 吉田精一(編)「研  
究書目・参考文献」9. 「讀者寄稿」10 [本冊の<sub>み</sub>].
- 〔35 宮本百合子集〕 1954年8月 〔6〕. ……………⇒ 【100全64】 〔64〕, 【143全64】 〔64〕.  
野上彌生子「古い日記から」1-2. 湯淺芳子「偶感二つ三つ」2-3. 佐多稻子「ある  
ときの百合子さん」3-5. 壺井榮「百合子さんの背中」5-6. 大田洋子「青い服と古  
めかしい着物」6-7&12. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献:島崎藤村」8 [→ 【100  
全19】]. 「同:芥川龍之介」9 [→ 【100全52】]. 「同:宮本百合子」10. 千勝三喜  
男「讀者寄稿:「城の崎にて」—微視的部分の—解釋—」11. 「編集後記」12.
- 〔36 横光利一集〕 1954年3月 〔8〕. ……………⇒ 【100全65】 〔65〕, 【143全65】 〔65〕.  
橋崎勤「横光文學の誕生」1-2. 古谷綱武「横光さんのこと」2-4. 岡本太郎「巴里  
の横光さん」4-5. 中里恒子「横顔」5-6. 横光象三「父」6-8. 「編集後記」8.
- 〔37 川端康成集〕 1955年11月 〔39〕. ……………⇒ 【100全66】 〔66〕, 【143全66】 〔66〕.  
尾崎一雄「川端康成氏のプロフィール」1-2. 宇野千代「二つの川端さん」2-3. 深田  
久彌「川端さんのこと」3-4. 山本健吉「『山の音』紅葉見の巻」4-6. 石濱金作「川  
端君の若い頃」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 荒木征「讀者寄稿:「清  
兵衛と瓢箪」と「小僧の神様」」10 [本冊の<sub>み</sub>].
- 〔38 葉山嘉樹・小林多喜二・中野重治集〕 1954年12月 〔23〕.  
……………⇒ 【100全67】 〔67〕, 【143全67】 〔67〕.  
前田河廣一郎「葉山嘉樹について」1-2. 壺井繁治「きれぎれの思い出」2-3. 手塚  
英孝「思い出をたどって」4-5. 中島健藏「中野重治の人がら」5-6. 杉浦明平「二  
つの青春」6-7. 「編集後記」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 「同:梶井  
基次郎」10 [→ 【100全72】]. 「同:堀辰雄」10 [→ 【100全72】].
- 〔39 平林たい子・佐多稻子・網野菊・壺井榮集〕 1955年2月 〔25〕.  
……………⇒ 【100全68】 〔68〕, 【143全68】 〔68〕.  
圓地文子「平林さんのこと」1-2. 佐々木基一「健氣な人」3-4. 阿川弘之「網野さ  
んのこと」4-6. 畔柳二美「春蘭」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 金  
澤守「讀者寄稿:堀辰雄「菜穂子」を讀んで」10 [本冊の<sub>み</sub>]. 藤田博保「讀者寄稿:  
『思ひ出』と太宰の内向的氣質」10 [本冊の<sub>み</sub>].

- 『40 瀧井孝作・尾崎一雄・外村繁・上林暁集』 1955年12月 42.  
……………⇒【100全69】69, 【143全69】69.  
井伏鱒二「十月十九日記」1. 小山清「瀧井さんのこと」1-2. 檀一雄「尾崎さんと旅」  
3-4. 青柳瑞穂「外村繁雑感」4-6. 壺井榮「春蘭」6-7. 「編集後記」7. 吉田精一(編)  
「研究書目・参考文献」9. 氏家昌善「讀者寄稿:「土」を読んで」10 [本冊のみ].
- 『41 井伏鱒二集』 1953年12月 5. ……………⇒【100全70】70, 【143全70】70.  
おけたに  
桶谷繁雄「井伏鱒二氏の小説」1-2. 永井龍男「心あたたまる」2-3. 阿部眞之助「井  
伏鱒二覺書」3-4. 青柳瑞穂「井伏鱒二氏の骨董觀」4-6. 石井桃子「井伏さんのこと」  
6-8. 「編集後記」8.
- 『42 小林秀雄集』 1956年2月 43. ……………⇒【100全71】71, 【143全71】71.  
河上徹太郎「小林と私」1-2. 渡邊一夫「小林秀雄氏のこと」2-3. 吉田健一「無常  
といふこと」以後」3-5. 深田久彌「實生活の勁さ」5-6. 清水崑「小林さん」6-7. 吉  
田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 上坂信男「讀者寄稿:直哉の離教」10 [本冊  
のみ].
- 『43 梶井基次郎・三好達治・堀辰雄集』 1954年5月 12.  
……………⇒【100全72】72, 【143全72】72.  
淀野隆三「梶井と三好のこと一思い出すまま」1-4. 丸山薫「三好君のこと」4-5.  
河上徹太郎「堀文學の役割」6. 佐多稻子「堀さんとの若い日」7-8. 「編集後記」8.
- 『44 阿部知二・伊藤整・中山義秀集』 1955年7月 33.  
……………⇒【100全73】73, 【143全73】73.  
渡邊一夫「阿部さんのこと」1-2. 野間宏「『冬の宿』について」2-3. 高見順「方法  
論を持った作家」3-4. 河盛好藏「思いつくままに」5. 河上徹太郎「義秀ぎしゅうさんのこと」  
6-7. 大岡昇平「義秀さん」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 菅原寛「讀  
者寄稿:「中野重治詩集」と「歌のわかれ」と」10 [本冊のみ].
- 『45 岡本かの子・林芙美子・宇野千代集』 1954年2月 7.  
……………⇒【100全74】74, 【143全74】74.  
岡本太郎「思い出すこと」1-3. 壺井榮「はたちの芙美子」3-6. 三好達治「宇野千  
代さん」6-7. 森田たま「素描」7-8. 「編集後記」8.
- 『46 武田麟太郎・島木健作・高見順集』 1955年4月 29.  
……………⇒【100全75】75, 【143全75】75.

青野季吉「武田・島木・高見の三君について」1-3. 藤澤桓夫<sup>たけお</sup>「武田流一大學時代の思ひ出」3-4. 小林秀雄「島木君の思ひ出」5-6. 亀井勝一郎「同時代人として」6-7. 「編集後記」7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 仁科雄二「讀者寄稿：太宰治と高村光太郎のこと」10 [本冊のみ]. 矢數道節「讀者寄稿：三つの世界」10 [本冊のみ].

〔47 丹羽文雄・舟橋聖一集〕 1954年11月 21. ……⇒【100全76】76, 【143全76】76. 廣津和郎「稀なる長距離作家」1-2. 尾崎一雄「丹羽文雄に關する昔話」2-3. 十返<sup>とがえり</sup>聲「殘酷な運命」3-5. 今日出海「舟橋聖一論」5-6. 井上靖「舟橋氏の姿勢」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献：横光利一」8 [→【100全65】]. 「同：幸田露伴」9 [→【100全7】]. 「同：丹羽文雄・舟橋聖一」10. 椎名猛夫「讀者寄稿：「坂口安吾」讀后感」11 [本冊のみ]. 岩城和宏「讀者寄稿：芥川龍之介の作品を讀んで」11 [本冊のみ].

〔48 尾崎士郎・石川達三・火野葦平集〕 1955年11月 40. ……………⇒【100全77】77, 【143全77】77. 坪田讓治「尾崎さんの思出」1-2. 保高德藏<sup>やすたか</sup>「心境を語る俳句」2-3. 河盛好藏「明快な人」3-4. 井上友一郎「石川達三といふ人」4-5. 小松清「太い葦平細い葦平」5-6. 長谷健「火野葦平と女」6-7. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 旗手瑞穂<sup>はたて</sup>「讀者寄稿：秋聲について」10 [本冊のみ].

〔49 石川淳・坂口安吾・太宰治集〕 1954年9月 17. ……………⇒【100全78】78, 【143全78】78. 檀一雄「淳,安吾,治,覺え書」1-2. 安部公房「石川さんのこと」2-3. 大井廣介「その頃の坂口」4-5. 佐藤春夫「稀有の文才」5-6. 北畠八穂「津輕の太宰さん」7-8. 「編集後記」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献：森鷗外」9 [→【100全13】]. 「同：石川淳・坂口安吾・太宰治」10. 永田友市「讀者寄稿：鷗外と芥川」11.

〔50 眞船豊・久保榮・三好十郎・木下順二集〕 1956年9月 55. ……………⇒【100全79】79, 【143全79】79. 水谷八重子「眞船さんの戯曲」1-2. 八田元夫「久保榮抄」2-4. 村山知義「三好君のこと」4-6. 武智鐵二「木下順二さんとの交際—能様式による夕鶴上演のころ—」6-7. 「編集後記」8. 「落穂集」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 丹羽正光「讀者寄稿：黒の履歴書」10 [本冊のみ].

- 〔51 福澤諭吉・内村鑑三・岡倉天心集〕 1958年8月 〔95〕  
…………… ⇨ 【100全2】〔2〕, 【143全2】〔2〕  
家永三郎「諭吉・鑑三・天心について」1-3. 中村光夫「『瘦我慢の説』」3-5. 安陪能成「『余は如何にして基督教徒になりし乎』」5-6. 福原麟太郎「岡倉天心」7-8. 「編集後記」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 阪本和聖「讀者寄稿『太宰治』の苦惱」10. 「落穂集」10.
- 〔52 中江兆民・大杉榮・河上肇集〕 1957年4月 〔66〕 ⇨ 【100全3】〔3〕, 【143全3】〔3〕  
なかのしげはる「三人の文章家」1-2. 丸山眞男「ある感想」2-3. 荒畑寒村「大杉榮の半面」4-5. 末川博「河上肇のあるおもかげ」5-7. 「落穂集」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9-10.
- 〔53 齋藤緑雨・内田魯庵・木下尚江・上司小剣集〕 1957年10月 〔75〕  
…………… ⇨ 【100全5】〔5〕, 【143全5】〔5〕  
塩田良平「緑雨について」1-3. 柳田泉「若き不知庵の戀」3-4. 小田切秀雄「尚江は生きている—木下尚江の再評價—」4-6. 中村白葉「上司さんの思ひ出」6-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 「落穂集」10.
- 〔54 泉鏡花・徳富蘆花集(二)〕 1957年2月 〔62〕 ⇨ 【100全10】〔10〕, 【143全10】〔10〕  
吉井勇「泉鏡花先生の作品」1-2. 高橋義孝「鏡花文學の特色」3-4. なかのしげはる「中學生時代」5-6. 山室靜「蘆花恒春園周邊」6-8.
- 〔55 森鷗外集(二)〕 1956年10月 〔56〕 …………… ⇨ 【100全13】〔13〕, 【143全13】〔13〕  
亀井勝一郎・高橋義孝「對談 鷗外の周邊」1-8.
- 〔56 小杉天外・小栗風葉・岡本綺堂・眞山青果集〕 1957年6月 〔69〕  
…………… ⇨ 【100全6】〔6〕, 【143全6】〔6〕  
福田清人「天外と風葉」1-3. 濱村米藏「戯曲家の二つの型」3-5. 岡本經一「綺堂老人のこと」5-6. わたや・きよし綿谷雪「青果先生の日記」7-8. 「小資料」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 「落穂集」10 [本冊のみ].
- 〔57 國木田獨歩集〕 1956年6月 〔50〕 …………… ⇨ 【100全14】〔14〕, 【143全14】〔14〕  
前田晁「いつも明朗な獨歩」1-2. 稻垣達郎「獨歩と青年文學會」2-4. 上のむら外村繁「『獨歩全集』の思ひ出」4-5. 野田宇太郎「獨歩の女性觀」5-7. 國木田治「夫獨歩の謎」7-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 高久繁「讀者寄稿:『墮落論』を読んで」10. 「落穂集」10.

- 『58 土井晩翠・薄田泣菫・上田敏・蒲原有明集』 1957年8月 72.  
 ……………⇒【100全15】15, 【143全15】15.  
 太田三郎「晩翠詩と朗誦性」1-2. 三木露風「薄田泣菫に就て」3-4. 堀口大學「上田敏先生片影」4-6. 福永武彦「有明詩の問題」6-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 山村直樹「讀者寄稿:「夜明け前」を読んで」10. 「落穂集」10.
- 『59 高山樗牛・島村抱月・片上伸・生田長江集』 1958年6月 92.  
 ……………⇒【100全16】16, 【143全16】16.  
 塩田良平「樗牛雜感」1-3. 秋田雨雀「島村抱月氏と二つの戯曲について」3-4. 谷崎精二「片上先生の事」4-6. 伊福部隆彦「長江先生の宗教觀」6-7. 「落穂集」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9-10.
- 『60 島崎藤村集(二)』 1957年12月 79. ……………⇒【100全18】18, 【143全18】18.  
 佐藤春夫・亀井勝一郎「對談 島崎藤村を語る」1-8.
- 『61 島崎藤村集(三)』 1957年5月 68. ……………⇒【100全19】19, 【143全18】19.  
 海音寺潮五郎「故道行く人小なり」1-2. 小西四郎「藤村の「夜明け前」—歴史家の見た隨想—」2-4. 外村繁「「夜明け前」の感銘」4-5. 村山知義「劇化の思い出」5-7. 菊池重三郎「「夜明け前」の馬籠」7-8.
- 『62 田山花袋集(二)』 1958年5月 90. ……………⇒【100全21】21, 【143全21】21.  
 前田晁・瀬沼茂樹「對談 田山花袋の思い出」1-8.
- 『63 徳田秋聲集(二)』 1957年11月 78. ……………⇒【100全23】23, 【143全23】23.  
 廣津和郎・吉田精一「對談 があるがままの肯定、の作家」1-8.
- 『64 夏目漱石集(二)』 1956年5月 49. ……………⇒【100全25】25, 【143全25】25.  
 荒正人・平野謙「對談 漱石の問題」1-8.
- 『65 夏目漱石集(三)』 1958年4月 88. ……………⇒【100全26】26, 【143全26】26.  
 高濱虛子「漱石の一言——完全な人間になりたい—」1-2. 野上彌生子「九十歳の先生」2-3. 江藤淳「夏目漱石の文體」3-5. 夏目伸六「思ひ違ひ」5-6. 岡保生「小栗風葉年譜補正」7 [→【100全6】]. 「落穂集」8.
- 『66 高濱虛子集』 1957年1月 61. ……………⇒【100全27】27, 【143全27】27.  
 野上彌生子「高濱さんと私」1-2. 久保田万太郎「虚子といふ人」2-3. 瀧井孝作「句集を讀み乍ら」3-5. 中村草田男「平日平路の人」5-6. 星野立子「父の小説」6-7. 「編集後記」8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. かねこやすひこ「讀者寄稿:

- 再び月報の製本について」10. 「落穂集」10.
- 『67 正宗白鳥集 (二)』 1957年9月 ㉓. ……………⇒ 【100全31】㉓, 【143全31】㉓.  
正宗白鳥・きき手杉森久英「対談 自分のこと・ひとのこと」1-7. 「落穂集」7. 中島馨(編)「正宗白鳥年譜追補」8.
- 『68 永井荷風集 (二)』 1958年1月 ㉑. ……………⇒ 【100全35】㉑, 【143全35】㉑.  
あいそ・りょうそう おかど  
相磯凌霜・小門勝二「対談 荷風よもやまばなし」1-8. 相磯凌霜(編)「永井荷風年譜追補」8.
- 『69 若山牧水・島木赤彦・中村憲吉・木下利玄集』 1958年6月 ㉑.  
……………⇒ 【100全33】㉑, 【143全33】㉑.  
若山喜志子「こんな追憶もある」1-3. 窪川鶴次郎「思い出」3-5. 木俣修「憲吉の頹唐的傾向」5-8. 長與善郎「木下君を憶ふ」8-10. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」11. 「落穂集」12.
- 『70 田村俊子・武林無想庵・小川未明・坪田譲治集』 1957年2月 ㉑.  
……………⇒ 【100全37】㉑, 【143全37】㉑.  
湯浅芳子「人間俊子」1-2. 松尾邦之助「たけばやし・むそうあん武林無想庵」2-3. 奥田準一「児童文學から見た未明, 譲治の人と作品をめぐる」4-6. 青野季吉「ユニークな人」6-7. 尾崎士郎「坪田譲治」7-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 斯波輝「讀者寄稿: 「満ちて来る潮」の發想」10.
- 『71 谷崎潤一郎集 (二)』 1956年4月 ㉑. ……………⇒ 【100全39】㉑, 【143全39】㉑.  
池田龜鑑「高い美と善の世界—「少將滋幹の母」と源氏物語—」1-2. 安田靫彦「谷崎さんと私」2-3. 丸岡明「谷崎氏について」3-4. とがえり十返肇「谷崎潤一郎氏のこと」5-6. 小山いと子「愛讀者の一人として」6-7. 「年譜補遺」8. 「参考文献補遺」8.
- 『72 武者小路實篤集 (二)』 1957年3月 ㉑. ……………⇒ 【100全41】㉑, 【143全41】㉑.  
白井吉見(きき手)「武者小路實篤先生との一時間」1-8.
- 『73 野口米次郎・三木露風・千家元麿・日夏耿之介集』 1956年12月 ㉑.  
……………⇒ 【100全45】㉑, 【143全45】㉑.  
春山行夫「野口米次郎氏の印象」1-3. 正富汪洋「三木露風に就いて」3-4. 宮崎丈二「車の音のことなど」5-6. 佐藤正彰「じほもん『咒文』について」6-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 小林富士雄「讀者寄稿: 獨歩の「春の鳥」」10. 「落穂集」10. 「野口米次郎集について」10.

- 『74 阿部次郎・倉田百三集』 1956年8月 53. ……⇒【100全46】46, 【143全46】46.  
唐木順三「阿部・倉田兩氏と大正期」1-2. 井上政次「阿部先生のこと」3-4. 鹽尻  
公明「『生活者』としての倉田さん」4-6. 藤原定「『生活者』のころ」6-8. 「編集後記」  
8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 千勝冬季「讀者寄稿：『歌のわかれ』  
に學んだこと—戦前の青春から何を學べきか—」10.
- 『75 中勘助・内田百閒集』 1956年6月 51. ……⇒【100全47】47, 【143全47】47.  
辰野隆「中勘助と内田百閒」1-2. 安倍能成「中勘助のこと」2-4. 小堀杏奴「訪問」  
4-5. 森田たま「舊跡合羽坂」5-7. 平山三郎「羽織をぬいた」7-8. 「落穂集」8. 吉  
田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 保昌正夫「横光利一年講のひとこま」10.
- 『76 釋迢空集』 1958年4月 87. ……⇒【100全50】50, 【143全50】50.  
亀井勝一郎「復原力」1-2. 西角井正慶「折口先生の學問」2-3. 室生犀星「折口さ  
んのこと」3-5. 宮柊二「いはゆる難解歌一首」5-6. 伊馬春部「旅の先生」6-8. 吉  
田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 松本政治「啄木の墓所について」10. 川路  
柳虹「松本氏へ」10. 「落穂集」10.
- 『77 前田河廣一郎・藤森成吉・徳永直・村山知義集』 1957年7月 70.  
……………⇒【100全54】54, 【143全54】54.  
小牧近江「『三等船客』と『中外』」1-2. 濱本浩「若き日のこと」3-4. 渡邊順三「い  
ろいろの思い出」4-6. 尾崎宏次「村山さんのこと」6-8. 吉田精一(編)「研究書目・  
参考文献」9. 櫻井増雄「戦後に於ける前田河先生の未刊行二大作品について」10.
- 『78 平林初之輔・青野季吉・藏原惟人・中野重治集』 1957年11月 77.  
……………⇒【100全55】55, 【143全55】55.  
佐藤輝夫「平林初之輔さんの死」1-2. 尾崎一雄「青野さん」2-4. 立野信之「藏原  
惟人のこと」4-5. 窪川鶴次郎「更年期—中野重治のこと—」6-7. 「中野重治年譜追補」  
8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 「プロレタリア文學のこぼ」10.
- 『79 十一谷義三郎・田畑修一郎・北條民雄・中島敦集』 1956年7月 52.  
……………⇒【100全63】63, 【143全63】63.  
稻垣足穂「文藝時代の頃——十一谷義三郎のことも合せて—」1-2. 小田嶽夫「田畑  
修一郎断片」3-4. 河上徹太郎「北條民雄のこと」4-6. 氷上英廣「中島敦の回想から」  
6-7. 「落穂集」8 [本冊のみ]. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9. 青木勇「讀者  
寄稿：或る姿態」10 [本冊のみ].

- 『80 大佛次郎・石坂洋次郎集』 1956年11月 58. …⇒【100全80】80, 【143全80】80.  
永井龍男「大佛集のこと」1-2. 手塚富雄「こころで書くひと」2-4. 今官一「<sup>こん</sup>太宰  
の確信—石坂文學にふれて—」4-6. 山本健吉「麥死なず・眞知子・黨生活者」6-7. 「「若  
い人」の雑誌発表と単行本の章別対照」8. 「落穂集」8 [本冊のみ]. 吉田精一(編)「研  
究書目・参考文献」9. 久貝良夫「讀者寄稿：木下空太郎寸感」10 [本冊のみ].
- 『81 永井龍男・井上友一郎・織田作之助・井上靖集』 1956年12月 60.  
……………⇒【100全81】81, 【143全81】81.  
外村繁「洗練された情操」1-3. 丹羽文雄「井上友一郎のこと」3-4. 青山光二「織  
田作之助と私」4-6. 野間宏「結晶の世界」6-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」  
9. 宗近愼也「讀者寄稿：美と生命の氾濫」10.
- 『82 椎名麟三・野間宏・梅崎春生集』 1958年2月 84.  
……………⇒【100全82】82, 【143全82】82.  
白井吉見「三人の戦後作家」1-2. 埴谷雄高<sup>はにや・ゆたか</sup>「椎名麟三の歩み」2-4. 井上靖「野間  
宏のこと」4-5. 霜田正次「梅崎春生のこと」6-7. 「落穂集」8. 吉田精一(編)「研  
究書目・参考文献」9-10.
- 『83 大岡昇平・田宮虎彦・武田泰淳・三島由紀夫集』 1958年7月 94.  
……………⇒【100全83】83, 【143全83】83.  
吉田健一「「俘虜記」の頃」1-2. 上林曉「田宮君」2-4. 竹内好<sup>よしみ</sup>「武田泰淳の一面」  
4-5. 湯浅芳子「ある對話」5-6&8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」7.
- 『84 明治小説集』 1957年7月 71. ……………⇒【100全84】84, 【143全84】84.  
青野季吉・白井吉見・吉田精一「座談會 明治の小説」1-9&12. 吉田精一(編)「研究  
書目・参考文献」10-11.
- 『85 大正小説集』 1957年12月 80. ……………⇒【100全85】85, 【143全85】85.  
上林曉・高見順「對談 大正の作家・作品」1-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」  
9-10.
- 『86 昭和小説集(一)』 1957年5月 67. ……………⇒【100全86】86, 【143全86】86.  
伊藤整・白井吉見・高見順・平野謙「座談會 昭和作家の思い出」1-9. 吉田精一(編)  
「研究書目・参考文献」10-11. 「落穂集」12.
- 『87 昭和小説集(二)』 1958年3月 86. ……………⇒【100全87】87, 【143全87】87.  
瀬沼茂樹「昭和十年代」1-3. 佐藤春夫「芥川賞の人々」3-5. 保高德藏<sup>やすたか</sup>「女流のブ

- ロフィール」5-7. 瀧井孝作・室生犀星・久米正雄・横光利一「芥川賞銓考委員評」7-8. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」9-10 [本冊のみ].
- 『88 昭和小説集 (三)』 1958年8月 86. ……⇒【100全88】88, 【143全88】88. 白井吉見・山本健吉・平野謙「座談會 戦前・戦後の文學を語る」1-10&12. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」11.
- 『89 現代詩集』 1958年2月 83. ……⇒【100全89】89, 【143全89】89. 川路柳虹・壺井繁治・村野四郎・草野心平「座談會 詩史のうらみち」1-13. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」14-15. 「落穂集」16.
- 『90 現代短歌集』 1957年9月 74. ……⇒【100全90】90, 【143全90】90. 土岐善麿・岡山巖・木俣修・近藤芳美「座談會 現代短歌のあゆみ」1-13&16. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」14-15.
- 『91 現代俳句集』 1957年4月 65. ……⇒【100全91】91, 【143全91】91. 石田波郷・大野林火・神田秀夫・西東三鬼さいとう・山本健吉「座談會 昭和俳句を語る」1-12&16. 「落穂集」8&12. 篠崎長洪「讀者寄稿: 外村さん」13. 「兄たり難く」13. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」14-15. 「編集後記」16.
- 『92 現代戯曲集』 1958年1月 82. ……⇒【100全92】92, 【143全92】92. 久保田万太郎・杉山誠・内村直也・戸板康二「座談會 近代劇の足跡」1-14. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」15.
- 『93 現代譯詩集』 1957年10月 76. ……⇒【100全93】93, 【143全93】93. 矢野峰人・三好達治・河盛好藏・安藤一郎「座談會 十二の名譯詩集」1-10&12. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」11. 「編集後記」12.
- 『94 現代文藝評論集 (一)』 1958年3月 85. ……⇒【100全94】94, 【143全94】94. 青野季吉・白井吉見・唐木順三・小田切秀雄「座談會 近代日本文學における評論の位置」1-13. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」14-15. 「編集後記」16.
- 『95 現代文藝評論集 (二)』 1958年7月 93. ……⇒【100全95】95, 【143全95】95. 中島健藏・伊藤整・白井吉見「座談會 昭和の文藝評論家たち」1-10&12. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」11.
- 『96 現代文藝評論集 (三)』 1958年5月 89. ……⇒【100全96】96, 【143全96】96. 山室静・荒正人「對談 外國文學者の果たした役割」1-10. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」11. 「落穂集」12.

- 『97 文學的回想集』 1958年9月 97. ……………⇒【100全97】97. 【143全97】97.  
本間久雄・成瀬正勝・塩田良平「座談會 明治文壇の人々」1-10&12. 吉田精一(編)「研究書目・参考文献」11. 「編集後記」12.
- 『別巻1 現代日本文学史』 1959年4月 98. ……………⇒【100全別1】98. 【143全別1】98.  
中村光夫・臼井吉見・平野謙「座談會「現代日本文学史」を書きおえて」1-12. 「現代日本文学全集」完結のごあいさつ」12. 「現代日本文学年表正誤表」13-14.
- 『別巻2 現代日本文学年表』 1958年9月. 1959年4月付の月報98が挿み込まれていた.

## 【新選 現代日本文学全集】 1958年10月～60年12月 38巻. 【38全】

※菊判上製函入各巻350円. 月報の刊記には「付録」の名称になっている. 戦後の新作が新仮名遣い新字体表記で組版された. このなかから36巻分が15年後に【143全】へ転用されたが、「付録」のほうは再利用されなかった.

- 『1 井伏鱒二集』 1958年11月 2].  
上林暁「井伏さんとのやりとり」1-2. 山本健吉「井伏さん雑感」2-4. 裕伊之助<sup>はざま</sup>「一読者として」4-6. 壺井栄「井伏鱒二氏についての正直な話」6-7. 安岡章太郎「井伏さんとマタタビ」7-8.
- 『2 石川淳集』 1959年5月 10].  
加藤周一「石川淳覚書」1-2. 東郷青児「石川淳さん」2-3. 大江健三郎「essaiについて」3-4. 長谷川四郎「気がかりな人物」5-6. 瀬沼茂樹「虚構と批評—現代文学の諸問題(3) 一」6-8. 「編集だより」8.
- 『3 川端康成集』 1958年10月 1].  
今東光「川端康成君のこと」1-3. 田中澄江「川端さんの「女」」3-4. 松岡洋子「川端さんとペン大会」4-6. 青野季吉「戦後の文学について」6-8. 「編集だより」8.
- 『4 尾崎一雄集』 1959年8月 15].  
丹羽文雄「尾崎一雄のこと」1-2. 水野成夫「尾崎一雄礼讃」2-3. 網野菊「尾崎一雄さんのこと」3-5. 長沖一<sup>まこと</sup>「庶民性の中の良識」5-6. 佐伯彰一「新聞小説論(III) 一「悪条件」を逆用せよ!」6-8.

## 『5 壺井栄集』 1960年2月 24.

坪田譲治「壺井さんのこと」1-2. 大谷藤子「大地の匂い」2-4. 芝木好子「壺井さんと私」4-5. 無着成恭「壺井栄の小説のこと」5-7. 小松伸六「東北の精神的風土—地方文学の諸問題(三)」7-8.

## 『6 中山義秀集』 1960年6月 29.

阿部知二「義秀像」1-2. 田辺茂一「四十代の義秀」2-3. 清水崑「義秀さんと私」3-5. 加賀淳子「気品の文学」5-7. 小松伸六「瀬戸内海文学の精神的風土—地方文学の諸問題(八)」7-8.

## 『7 中野重治集』 1960年8月 33.

壺井繁治「小さな感想」1-2. 佐多稲子「昔のある時の中野さん」2-4. 宇野重吉「福井の蕎麦」4-5. 霜多正次しもた・せいじ「中野重治について」5-6. 久保田正文「戦後の文学における「性」と「家」と I」6-8.

## 『8 上林暁集』 1959年4月 9.

河盛好蔵「上林君の近況」1-2. なかのしげはる「親しみの情」2-4. 外村繁とのむら「文学一途の人」4-6. 宇野重吉「静かな陽なた」6-7. 瀬沼茂樹「私小説の変貌—現代文学の諸問題(2)—」7-8. 「編集だより」8.

## 『9 阿部知二集』 1960年2月 23.

杉森久英「阿部知二とそのグループ」1-2. 沢野久雄「行動と奉仕と」2-4. 戸田エマ「阿部知二先生のこと」4-6. 針生一郎「戦時下のひとコマ」6-7. 小松伸六「北海道の精神的風土 その2—地方文学の諸問題(二)—」7-8. 「編集だより」8.

## 『10 永井龍男集』 1959年10月 18.

今日出海こん・ひでみ「永井君の横顔」1-2. 久保田万太郎「永井竜男讃」2. 深田久弥「永井竜男君のこと」3-4. 森田元子「苦行も又たのし」4-5. 佐伯彰一「世界のなかの日本文学(III)—美しき誤解」6-7. 「編集だより」7.

## 『11 佐多稲子集』 1960年8月 32.

壺井栄「車道づたい」1-2. 広津和郎「地味な清潔さ」2-3. 中里恒子「佐多さんとのつながり」3-5. 奥野健男「佐多さんのこと」5-6. 小松伸六「京都の精神的風土—地方文学の諸問題(十一)」7-8. 「編集だより」8.

## 『12 幸田文集』 1960年5月 28.

和田芳恵「一葉と文」1-2. 飯沢匡「「流れる」脚色の思い出」2-4. 森茉莉「幸田文

- 氏のこと」4-6. 遠藤周作「幸田さんのこと」6-7. 小松伸六「四国の精神的風土—  
地方文学の諸問題(七)」7-8.
- 『13 丹羽文雄集』 1959年2月 ⑥.  
井上友一郎「丹羽さんのこと」1-2. 和田芳恵「丹羽文学の女性像」2-4. 田宮虎彦「丹  
羽さんの周囲」4-5. 村松定孝「丹羽文雄私観」5-7. 十返<sup>とがえり</sup>肇「新人の氾濫—戦後文  
壇太平記(4)一」7-8.
- 『14 舟橋聖一集』 1958年12月 ③.  
高橋義孝「線路の向うの舟橋さん」1-2. 市川猿之助「舟橋君と私」2-3. 源氏鶏太「舟  
橋さんの笑顔」3-4. 豊田三郎「出版記念会の記憶から」4-6. 十返肇「今は亡き作  
家たち—戦後文壇太平記(1)一」6-8. 「編集だより」8.
- 『15 伊藤整集』 1959年8月 ⑭.  
正木ひろし「伊藤整とチャタレイ裁判」1-2. 三宅艶子「伊藤さんの怒り」2-4. 阪  
本越郎「若き詩人としての伊藤整氏」4-5. 石原慎太郎「伊藤整氏のある肖像」5-7.  
佐伯彰一「新聞小説論(II)—笑いと好奇心をとり戻せ—」7-8.
- 『16 石川達三集』 1959年7月 ⑬.  
青地晨「横浜事件の思い出」1-3. 中野好夫「ゴルフと碁と、そして——」3. 中山  
義秀「横光氏と石川さん」4. 野村尚吾「石川文学の秘密」4-6. 佐伯彰一「新聞小  
説論(I)—女性読者に無礼を働くな！」6-8.
- 『17 円地文子集』 1959年11月 ⑲.  
室生犀星「いたはられること」1-2. 尾崎一雄「円地さん」2-4. 吉田精一「円地さ  
んのこと」4-5. 三島由紀夫「円地さんと日本古典」5-7. 佐伯彰一「世界のなかの  
日本文学(IV)—ZENのニッポン型？」7-8.
- 『18 平林たい子集』 1959年6月 ⑪.  
青野季吉「地の底の声を」1-2. 保高<sup>やすたか</sup>徳蔵「偉大な個性」2-4. 小原元「平林たい子  
の魅力」4-5. 水谷準「暗い応接間—平林さんの思い出—」5-7. 瀬沼茂樹「組織と  
人間—現代文学の諸問題(4)一」7-8.
- 『19 火野葦平集』 1959年4月 ⑧.  
草野心平「火野葦平寸感」1-2. 佐多稲子「火野さんのこと」2-3. 劉寒吉「若い日  
の断片」4-5. 清水崑「河童と宋公館」5-7. 瀬沼茂樹「文学者の社会的地位—現代  
文学の諸問題(1)一」7-8. 「編集だより」8.

## 『20 高見順集』 1959年3月 〔7〕.

手塚富雄「イキと志気」1-2. 円地文子「高見さんの知性」2-3. 三雲祥之助「あの頃のこと」3-5. 原田義人「和服の似合うエレクトゥール—高見順氏のこと—」5-7. 十返肇「文士の海外渡航—戦後文壇太平記(5)—」7-8.

## 『21 井上靖集』 1959年1月 〔5〕.

なかのしげはる「北京、上海の本屋」1-2. 安藤更生「『天平の甕』をめぐって」2-4. 吉田健一「歴史と時代小説」4-5. 山崎豊子「不在のデスク」5-7. 十返肇<sup>とがえり</sup>「中間小説の行方—戦後文壇太平記(3)—」7-8.

## 『22 大岡昇平集』 1960年6月 〔30〕.

三島由紀夫「友情と考証」1-2. 三宅艶子「大岡さんと私」2-3. 江藤淳「東京生れ」3-5. 中村稔「中原中也年譜のことなど」5-7. 小松伸六「大阪の精神的風土—地方文学の諸問題(九)」7-8.

## 『23 井上友一郎集』 1959年12月 〔20〕.

尾崎士郎「井上友一郎・青年期の一面」1-2. 亀井勝一郎「無意味な散文精神」2-4. 円地文子「流暢さとねばり強さ」4. 石川利光「井上友一郎さんのこと」5-6. 佐伯彰一「世界のなかの日本文学(V)—「東は東」?—」6-8. 「編集日より」8.

## 『24 田宮虎彦集』 1960年3月 〔23〕.

桑原武夫「人を知る明のない先輩」1-3. 石垣綾子「田宮さんのこと」3-4. 城山三郎「田宮文学の香気」4-6. はぎわらとくし「過去と現在」6-7. 小松伸六「東京と関東の文学—地方文学の諸問題(四)」7-8.

## 『25 椎名麟三集』 1959年6月 〔12〕.

野間宏「跳躍力を持つ椎名麟三」1-2. 榛葉英治<sup>しんぼ</sup>「椎名麟三氏の小説」2-4. 小田切秀雄「椎名麟三への反撥と期待と」4-5. 佐古純一郎「神の道化師」5-7. 瀬沼茂樹「記録文学—現代文学の諸問題(5)—」7-8. 「編集日より」8.

## 『26 檀一雄集』 1960年12月 〔38〕.

尾崎一雄「同居時代」1-2. 向井潤吉「豪快的詩人」3-4. 庄野潤三「檀さんの印象」4-5. 佐々木久子「薄明の記憶」6-7. 久保田正文「戦後の文学における「性」と「家」とVI」7-8. 「『新選現代日本文学全集』完結のごあいさつ」8.

## 『27 武田泰淳集』 1960年4月 〔27〕.

椎名麟三「武田泰淳のこと」1-2. 吉田健一「『人間・文学・歴史』」2-4. 壇谷雄高<sup>はにや・ゆたか</sup>「『愛』

- のかたち』の頃」4-5. 会田綱雄「ある夫婦の会話」5-7. 小松伸六「北九州文学の精神的風土—地方文学の諸問題(六)」7-8.
- 『28 梅崎春生集』 1959年10月 17.
- 椎名麟三「梅崎さんのこと」1-2. 木下順二「梅崎のこと」2-3. 阿川弘之「練馬大王」4-5. 江崎誠致「梅崎さんへの期待」5-6. 佐伯彰一「世界のなかの日本文学(II) — `Kappa、の不意打ちから—」6-8.
- 『29 野間宏集』 1960年10月 36.
- 椎名麟三「野間宏と扇」1-2. 富士正晴「断片」2-4. 瓜生忠夫「野間が「暗い絵」を書いていたころ」4-5. 大江健三郎「なにごと野間団長に！」5-7. 久保田正文「戦後の文学における「性」と「家」とIV」7-8.
- 『30 堀田善衛集』 1958年12月 4.
- 中島建蔵「堀田善衛の姿」1-2. 芥川比呂志「堀田のこと」2-3. 遠藤周作「昔のころ」3-5. 開高健「某月某日」5-6. 十返肇「文学賞について—戦後文壇太平記(2)—」7-8. 「編集だより」8.
- 『31 三島由紀夫集』 1960年1月 22.
- 吉田健一「三島氏の作品」1-2. 嘉治隆一「交友二代」2-4. 蘆原英了「ヴェット・三島由紀夫」4-5. 杉村春子「「鹿鳴館」のことなど」6-7. 小松伸六「北海道の精神的風土 その1—地方文学の諸問題(二)—」7-8.
- 『32 戦後小説集 (一)』 1960年9月 34.
- 小島信夫・吉行淳之介・大江健三郎・司会佐伯彰一「座談会 戦後小説について 上」1-6. 久保田正文「戦後の文学における「性」と「家」とII」7-8.
- 『33 戦後小説集 (二)』 1960年11月 37.
- 小島信夫・吉行淳之介・大江健三郎・司会佐伯彰一「座談会 戦後小説について 下」1-7. 久保田正文「戦後の文学における「性」と「家」とV」7-8.
- 『34 渡辺一夫・竹山道雄・桑原武夫・加藤周一集』 1959年9月 16.
- 大江健三郎「《冷やかに、しかし熱情をこめて》」1-2. 林健太郎「現代のソクラテス」2-4. 貝塚茂樹「桑原武夫の第二芸術」4-5. 江藤淳「加藤周一氏について」5-7. 佐伯彰一「世界のなかの日本文学(I)—「レイディ・ムラサキによるしく」」7-8.
- 『35 河上徹太郎・小林秀雄・唐木順三・亀井勝一郎集』 1960年10月 35.
- 吉田健一「飲食行」1-2. 永井竜男「刀の鏢」3-4. 高藤武馬たかとう「朴雨亭主人」4-5. 円

地文子「亀井さんのこと」5-6. 久保田正文「戦後の文学における「性」と「家」と III」6-8.

『36 河盛好藏・中島健蔵・中野好夫・臼井吉見集』 1959年12月 ②.

上林暁「河盛さん」1-2. 小田切秀雄「文学者としての中島健蔵」2-4. 丸谷オ一「黒いベレー」4-5. 曾野綾子「芝とにせ芝」5-7. 小松伸六「地方と東京—地方文学の諸問題(一)」7-8.

『37 山本健吉・中村光夫・吉田健一・中村真一郎集』 1960年4月 ②.

田中千禾夫「畏友・山本健吉」1-2. 大岡昇平「中村光夫と二十年」3-4. 河上徹太郎「食味評論家吉田健一」4-5. 堀田善衛「中村真一郎君」5-7. 小松伸六「裏日本(北陸・山陰)の精神的風土—地方文学の諸問題(五)」7-8. 「編集だより」8.

『38 平野謙・荒正人・高橋義孝・小田切秀雄集』 1960年7月 ③.

本多秋五「八高時代の平野謙」1-3. 埴谷雄高「荒エレクトロニクス」3-4. 井上靖「高橋義孝氏のこと」5-6. 中島健蔵「小田切秀雄の態度」6-7. 小松伸六「東海地方の精神的風土—地方文学の諸問題(十)」7-8.

## 【新鋭文学叢書】 1960年6月～61年5月 12巻. 【12 鋭】

※「過去の文学遺産の決算ではなく…未来の可能性への架橋となる」(広告)は  
ずの12人の代表作品集。四六判並製函入りで、各巻280円平均260頁という  
コンパクトな`叢書`。`附録`も一律8頁建てであった。

『1 阿川弘之集』 1960年11月 ⑥.

尾崎一雄「阿川君」1-3. 千谷道雄<sup>ちや</sup>「学生時代の阿川弘之」3-5. 田村美好「くいしんぼう」5-6. 田辺孝治「健康優良児阿川弘之氏」6-8.

『2 安部公房集』 1960年12月 ⑦.

野間宏「安部公房の存在」1-3. 勅使河原宏「[赤い繭]の頃」3-4. 和田勉「テレビのためのなわと棒」4-7. ヨネヤマ・ママコ「安部さんが一人の異邦人を助けた話」7-8.

『3 小島信夫集』 1961年1月 ⑧.

- 西川正身「小島信夫君のこと」1-2. 伊藤信吉「誘惑された地点で」2-4. 中村真一郎「小島信夫の印象」5-7. 吉行淳之介「小島さん」7-8.
- 『4 安岡章太郎集』 1961年4月 ⑩.  
野田開作「『ガラスの靴』前後」1-3. 坂口三千代「安岡氏のムード」3-5. 阿川弘之「安岡章太郎ノート」5-6. 坂上弘「私がなぜ安岡さんから怒られるか」6-8.
- 『5 吉行淳之介集』 1960年9月 ④.  
十返肇「吉行淳之介のデビュー前後」1-3. 浜田新一「『世代』のころの吉行のこと」3-5. 遠藤周作「吉行の人徳」5-7. 山口洋子「『水族館にて』の女」7-8.
- 『6 遠藤周作集』 1960年8月 ③.  
佐藤朔「『アデンまで』まで」1-3. 安岡章太郎「名前と風貌」3-5. 庄野潤三「入院前後」5-6. 佐々木久子「遠藤さんと私」7-8.
- 『7 曾野綾子集』 1960年10月 ⑤.  
本多顕彰「聖心と曾野さん」1-3. 阪田寛夫「八年前のこと」3-4. 北杜夫「三回ほどの印象」5-6. 奥野健男「曾野さんのこと」6-8.
- 『8 石原慎太郎集』 1960年7月 ②.  
伊藤整「石原慎太郎君のこと」1-3. 浅見淵「『太陽の季節』前後」3-5. 江藤淳「石原慎太郎と私」5-7. 谷川俊太郎「自分に追いつけぬ男」7-8.
- 『9 有吉佐和子集』 1961年2月 ⑨.  
森田たま「愛読者の一人」1-3. 石原慎太郎「稀有な女友達」3-5. 松浦竹夫「有吉佐和子讃」5-7. 小林勝「約束を守ってくれた人」7-8.
- 『10 菊村到集』 1961年3月 ⑩.  
福田恆存「浮かぬ顔」1-3. 石上玄一郎「菊村氏との交遊」3-4. 沢野久雄「菊村さんのこと」5-6. 川上宗薫「彼が対峙するもの」6-8.
- 『11 開高健集』 1961年5月 ⑫.  
埴谷雄高「竜の法螺」1-3. 柳原良平「『人間らしくやりたい』」3-4. 安部公房「言葉の氾濫する文学」5-6. 大江健三郎「この新しい大阪人間」6-8.
- 『12 大江健三郎集』 1960年6月 ①.  
渡辺一夫「大江健三郎君のこと」1-2. 石原慎太郎「大江的発想」3-4. 武満徹「私の好きな小説」5-6. 岸田衿子「大江さんと動物」6-8.

【現代文学大系】 1963年9月～68年7月 69巻＋『別冊現代日本文学史』.

【70系】

※四六判上製函入、各巻480円。完結した半年後の1969年3月に再版された際に『70月報合本』（本体の巻順に月報を綴じ込む）の巻が追加された。それをオリジナルの月報数冊と照合した限りでは原本の忠実な複製であると見込めたので、本項の執筆には『70月報合本』を利用した。なおこの『合本』巻は1975年11月の【70全】（後述）にも転用されていることもあってか、古書で見掛けることが多い。

- 『1 坪内逍遙・二葉亭四迷・北村透谷集』 1967年10月 58 [合本 pp.1-8].  
 .....⇨【97系1】57.  
 木村毅「『国語読本』のことなど」1-3. 小田切秀雄「溺没と風刺と—晩年の二葉亭四迷—」3-4. 平岡敏夫「透谷と国府津・小田原」4-6. 三好行雄「感傷的な透谷像」6-7. 「参考文献」8.
- 『2 尾崎紅葉・泉鏡花集』 1965年10月 30 [9-16]. .....⇨【97系2】47.  
 丸岡明「紅葉の『病骨録』」1-2. 岡保生「紅葉文学のたのしさ」3-4. 村松定孝「『照葉狂言』のモデル——湯浅しげ次のこと—」4-6. 三好行雄「ある記憶」6-7. 「現代文学事典②⑥ 中間小説」7. 「参考文献」8.
- 『3 幸田露伴・樋口一葉集』 1965年3月 22 [17-24]. .....⇨【97系3】65.  
 高木卓「露伴の父母」1-3. 柳田泉「『探検実話・竜睡丸漂流記』という本」3-4. 塩田良平「『われから』の情事描写」4-6. 和田芳恵「歴史のひとつこま」6-7. 「現代文学事典②⑩ 余裕派」7. 「参考文献」8.
- 『4 森鷗外集』 1964年10月 16 [25-32]. .....⇨【97系4】17.  
 森於菟「小倉日記と鷗外の書簡」1-3. 澤柳大五郎「『假名遣意見』の餘白に」3-4. 中村翫右衛門「演劇になり映画になった『阿部一族』」4-5. 伊藤佐喜雄「私の名作鑑賞—『澀江抽斎』の秘密—」6-7. 「現代文学事典⑭ 社会小説」7. 「参考文献」8.
- 『5 徳富蘆花・木下尚江・岩野泡鳴集』 1966年4月 37 [33-40]. .....⇨【97系5】55.  
 神崎清「トルストイと徳富蘆花」1-2. 吉田精一「『日本主義』と泡鳴」3-4. 大久保典夫「『燃える襦袢』の女」4-5. 山極圭司やまぎわ「尚江と演説」5-7. 「現代文学事典⑲ 新感

- 覚派」7. 「参考文献」8.
- 『6 國木田獨歩・石川啄木集』 1967年11月 60 [41-48].  
白井吉見「出生の秘密—独歩研究家前田重のこと—」1-3. 高田瑞穂「独歩と『洋装文学』」3-4. [以上→【97系6】]. 大熊信行「啄木発見」4-6. 高杉一郎「啄木とクロボトキン」6-7 [→【97系7】]. 「参考文献」8.
- 『7 正岡子規・高浜虚子・長塚節集』 1968年4月 65 [49-56].  
江藤淳「青年正岡常規」1-3. 高浜年尾「子規宛最初の虚子書簡」3-4. [以上→【97系7】]. 吉屋信子「虚子庵の思出」5-6. 柴生田稔<sup>しばうた</sup>「長塚節書き入れの『竹の里人選歌』」6-7 [→【97系7】]. 「参考文献」8.
- 『8 島崎藤村集(一)』 1963年11月 3 [57-64]. ……………⇒【97系8】 ⑬.  
島崎楠雄「遠い思い出」1-2. 浅見淵「藤村と自由」2-4. 山本太郎「藤村の片影—山本鼎の巴里便りより—」4-5. 唐木順三「藤村雑感」5-7. 「現代文学事典③ 政治小説」7. 「参考文献」8.
- 『9 島崎藤村集(二)』 1965年6月 26 [65-72]. ……………⇒【97系9】 ⑬.  
菊池重三郎<sup>しず せうおく</sup>「静の草屋の庭」1-2. 伊藤信吉「オフェリヤの歌」2-4. 関良一「藤村の呪術」4-6. 荒正人「告白」6-7. 「参考文献(続)」8.
- 『10 田山花袋集』 1966年1月 34 [73-80].  
瀬沼茂樹「花袋の思想」1-2 [→【97系6】]. 岩本胖「花袋文学の二面性」2-4. 和田謹吾「紀行文家・花袋」4-5. 福田清人「花袋雑記」5-7 [→【97系6】]. 「現代文学事典⑧ 写実主義」7 [→【97系6】]. 「参考文献(続)」8.
- 『11 徳田秋聲集』 1965年5月 24 [81-88]. ……………⇒【97系10】 ⑬.  
徳田一穂「本郷通り」1-2. 殿田良作「秋聲と金沢」2-4. 野口富士男「『二十四五』と『中年増』」4-5. 吉田精一「私の名作鑑賞—技法上から見た『徴』—」5-7. 「現代文学事典② 歴史小説」7. 「参考文献」8.
- 『12 正宗白鳥集』 1966年11月 45 [89-96]. ……………⇒【97系11】 ⑬.  
広津和郎「正宗さんの『アーメン』について」1-2. 中島河太郎「白鳥病患者」2-3. 後藤亮「白鳥伝説と寿喜童女」3-5. 浅見淵「正宗白鳥の一断面」5-7. 「現代文学事典⑦ プロレタリア・リアリズム」7. 「参考文献」8.
- 『13 夏目漱石集(一)』 1964年2月 7 [97-104]. ……………⇒【97系12】 ⑬.  
阿部知二「漱石から現代まで」1-2. 津田青楓「漱石先生の印象記」3-4. 千谷七郎<sup>ちたに</sup>「漱

- 石と「硝子戸の中」]4-5. 成瀬正勝「私の名作鑑賞—「草枕」の造形したもの—」5-7. 「現代文学事典⑥ 心境小説」7. 「参考文献」8.
- 『14 夏目漱石集 (二)』 1964年12月 ⑩ [105-112]. ……⇒【97系13】②3.  
武田泰淳「漱石の女性像」1-2. 松岡譲「山房始末記」2-4. 海老池俊治「漱石と英文学」4-5. 平田次三郎「私の名作鑑賞—「ころも」—」5-7. 「現代文学事典⑦ 実相観入」7. 「参考文献」8.
- 『15 北原白秋・高村光太郎・宮澤賢治集』 1965年11月 ⑪ [113-120].  
……………⇒【97系14】③3.  
木俣修「黒い眼鏡—最晩年の白秋先生—」1-2. 尾崎喜八「そのおかげ」3-4. 真壁仁「賢治三十三回忌」4-6. 倉持功「小さなエピソード」6-7. 「現代文学事典⑧ ゾライズム」7. 「参考文献」8.
- 『16 齋藤茂吉・島木赤彦・若山牧水・釋超空集』 1966年7月 ⑫ [121-128].  
……………⇒【97系15】④7.  
斎藤茂太「父の診察」1-3. 鹿兒島寿蔵「赤彦先生のこと二三」3-4. 木俣修「牧水の恋愛歌」4-6. 加藤守雄「戯曲「かざんじ花山寺縁起」のことなど」6-7. 「訂正」7 [本冊のみ]. 「参考文献」8.
- 『17 永井荷風集』 1965年11月 ⑬ [129-136]. ……⇒【97系16】⑤.  
いわや巖谷大四「義理堅い人」1-2. 菅原明朗「罹災日乗考」2-4. おかど小門勝二「荷風の修繕無用論」4-6. 竹西寛子「ある印象」6-7. 「参考文献」8.
- 『18 谷崎潤一郎集 (一)』 1964年8月 ⑭ [137-144]. ……⇒【97系17】⑦.  
広津和郎「「細雪」について」1-2. 谷崎精二「兄と私」2-3. 武智鉄二「京都の谷崎先生」4-5. 吉田健一「私の名作鑑賞—「蘆刈」—」5-7. 「現代文学事典⑩ 浪漫主義」7. 「参考文献」8.
- 『19 谷崎潤一郎集 (二)』 1966年5月 ⑮ [145-152]. ……⇒【97系18】④1.  
山本健吉「大正期の作家たちと谷崎氏」1-2. 高峰秀子「「細雪」の舞台裏」2-4. 野村尚吾「先生と犬と猫」4-5. 吉田健一「私の名作鑑賞—「細雪」—」6-7. 「現代文学事典⑨ シュールレアリズム」7. 「参考文献」8.
- 『20 武者小路実篤集』 1964年5月 ⑯ [153-160]. ……⇒【97系19】③5.  
佐藤春夫「この人を見る—武者小路実篤—」1-2. 林武「真, 愛, 美」2-4. 渡辺貫二「新しき村昨年」4-5. 市原豊太「私の名作鑑賞—「人間万歳」—」5-7. 「現代文学

- 事典⑨ 私小説」7. 「参考文献」8.
- 『21 志賀直哉集』 1963年12月 ⑤ [161-168]. ……⇒【97系20】⑫.  
武者小路実篤「交友六十年」1-2. 広津和郎「松川問題と志賀さん」3-4. 尾崎一雄「小説による初めての感動」4-6. 阿川弘之「私の名作鑑賞—「山鳩」と「朝顔」—」6-7. 「現代文学事典⑤ プロレタリア文学」7. 「参考文献」8.
- 『22 有島武郎集』 1964年11月 ⑧ [169-176]. ……⇒【97系21】⑨.  
谷川徹三「草の葉会のこと」1-2. 荒正人「『宣言一つ』」2-4. 佐古純一郎「有島武郎の日記」4-6. 山田昭夫「有島武郎と札幌」6-7. 「現代文学事典⑩ 新体詩」7. 「参考文献」8.
- 『23 里見淳・久保田万太郎集』 1966年9月 ⑬ [177-184]. ……⇒【97系22】⑥9.  
尾崎一雄「里見さん」1-2. 瀬沼茂樹「『善心悪心』のころ」2-4. 丸岡明「鰻と鳩」4-5. 福田清人「久保田さんのこと」5-7. 「現代文学事典⑳ 美的生活論」7. 「参考文献」8.
- 『24 長與善郎・野上彌生子集』 1967年2月 ⑭ [185-192]. ……⇒【97系23】⑬.  
阿部知二「長与善郎断想」1-2. 稲垣達郎「長与作品のヴァリエーション」2-4. 佐多稲子「北軽井沢の野上さん」4-5. 遠藤祐「『真知子』とその作者」5-7. 「現代文学事典④ クラルテ運動」7. 「参考文献」8.
- 『25 芥川龍之介集』 1963年9月 ① [193-200]. ……⇒【97系24】③.  
恒藤恭<sup>つねとう</sup>「学生時代の芥川龍之介—いくつかのエピソード—」1-4. 大江健三郎「芥川の『老年』」4-5. 瀬沼茂樹「私の名作鑑賞」5-7. 「現代文学事典① 自然主義」7. 「参考文献」8.
- 『26 山本有三集』 1964年1月 ⑥ [201-208]. ……⇒【97系25】④5.  
荒正人「山本有三氏の人間観」1-2. 西尾実「山本有三さんと国語問題」3-5. 高橋健二「山本さんのすがお」5-6. 福田清人「私の名作鑑賞—「路傍の石」と児童像—」6-7. 「参考文献」8.
- 『27 佐藤春夫集』 1964年5月 ⑪ [209-216]. ……⇒【97系26】③7.  
堀口大學「親交半世紀」1-2. 江口渙「若き日の佐藤春夫」2-4. 中谷孝雄「春の日の主」4-6. 島田謹二「私の名作鑑賞—「田園の憂鬱」—」6-7. 「参考文献」8.
- 『28 菊池寛・廣津和郎集』 1967年5月 ⑫ [217-224]. ……⇒【97系27】⑤9.  
江口渙「菊池寛の思い出」1-3. 夏目伸六「菊池先生のこと」3-4. 阿川弘之「広津さんの若さ」5-6. 藤原審爾「自分に対する責任」6-7. 「現代文学事典④3 平民主義」7.

- 「参考文献」8.
- 〔29 宇野浩二・葛西善蔵・牧野信一集〕 1967年7月 55 [225-232]. ⇨ 【97系28】 62.  
 広津和郎「交友四十五年」1-2. 宇野守道「鬼の息子大驚き」2-4. 木佐木勝「「風狂の父」葛西善蔵」4-5. 安岡章太郎「ある共感」5-7. 「現代文学事典④ 新興俳句」7. 「参考文献」8.
- 〔30 室生犀星・外村繁集〕 1965年8月 28 [233-240]. ……⇨ 【97系29】 39.  
 中野重治「茶と菓子」1-2. 新保千代子「室生先生と私」3-4. 中谷孝雄「外村繁のこと」4-5. 浅見淵「外村繁の郷里」6-7. 「現代文学事典④ 大衆文学」7. 「参考文献」8.
- 〔31 瀧井孝作・尾崎一雄・上林暁集〕 1965年12月 33 [241-248].  
 饗庭節「瀧井先生の印象」1-2 [→ 【97系30】]. 阿川弘之「尾崎さん」3-4. 沢木欣一「上林暁さんのこと」4-6 [→ 【97系30】]. 関口良雄「二冊の文学書目」6-7. 「参考文献」8.
- 〔32 横光利一集〕 1966年11月 46 [249-256]. ……⇨ 【97系31】 31.  
 中島健蔵「<sup>ぼじゅつ</sup>「戊戌集」」1-2. 古谷綱武「背広姿の横光さん」2-4. 横光章象[象三]「父」4-5. 安藤一郎「私の名作鑑賞—「機械」その他について—」5-7. 「現代文学事典⑧ 形式主義文学論争」7. 「参考文献」8.
- 〔33 川端康成集〕 1964年11月 17 [257-264]. ……⇨ 【97系32】 11.  
 山本健吉「川端さんの文章」1-2. 衣笠貞之助「新感覚派映画聯盟の頃」2-4. 進藤純孝「川端さんの客間」4-5. 長谷川泉「私の名作鑑賞—「伊豆の踊子」—」5-7. 「現代文学事典⑮ 社会主義リアリズム」7. 「参考文献」8.
- 〔34 萩原朔太郎・三好達治・西脇順三郎集〕 1965年7月 27 [265-272].  
 ……⇨ 【97系33】 79.  
 西脇順三郎「グロテスク・アート」1-3. 田村隆一「<sup>ちようご</sup>鳥語—達治礼讃—」3-4. 村野四郎「西脇先生のこと」5-6. 寺田透「偶感」6-7. 「参考文献」8.
- 〔35 梶井基次郎・堀辰雄・中島敦集〕 1964年6月 12 [273-280]. ……⇨ 【97系34】 33.  
 飯島正「梶井のおもいで」1-2. 堀多恵子「思うことなど」2-3. 土方久功「パラオでのトンちゃん」3-5. 安岡章太郎「三種の神器」5-7. 「現代文学事典⑩ 性格破産者」7. 「参考文献」8.
- 〔36 中野重治集〕 1966年5月 38 [281-288]. ……⇨ 【97系35】 91.  
 清岡卓行「正確な距離のリリズム」1-2. 佐多稲子「今日の中野さん」2-4. 杉森

- 久英「中野さんのこと」45. 久保田正文「私の名作鑑賞—「五勺の酒」と「なつかしい日本」との関係—」5-7. 「現代文学事典③ 平面描写」7. 「参考文献」8.
- 〔37 葉山嘉樹・小林多喜二・徳永直集〕 1966年2月 ③⑤ [289-296].  
祖父江昭二「葉山嘉樹断想」1-3 [→ 【97系36】]. 平野謙「中野重治の小林多喜二論」3-5. 関根弘「徳永直の悲劇」5-7. 「現代文学事典② 没理想論争」7 [→ 【97系36】]. 「参考文献」8.
- 〔38 宮本百合子・佐多稲子集〕 1964年3月 ⑧ [297-304].  
湯浅芳子「百合子の若さ」1-2. 白井吉見「女史おかんむりのこと」3-4. [以上→ 【97系37】]. 中野重治「佐多稲子断片」4-6. 壺井栄「佐多さんとのめぐりあい」6-7 [→ 【97系39】]. 「現代文学事典⑦ 写生文」7 [→ 【97系39】]. 「参考文献」8.
- 〔39 網野菊・壺井栄・幸田文集〕 1968年1月 ⑥② [305-312]. ……⇨ 【97系40】 ⑧①.  
湯浅芳子「網野さんとの不思議な縁」1-2. 大谷藤子「壺井栄さんと私」3-4. 佐多稲子「壺井さんとの旅」4-6. 鹽谷贊「交際を求めない幸田さん」6-7. 「参考文献」8.
- 〔40 平林たい子・円地文子集〕 1965年9月 ②⑨ [313-320]. ……⇨ 【97系41】 ⑦⑦.  
芝木好子「平林さんの次のお仕事」1-2. 円地文子「イタリアの旅」2-4. 丹羽文雄「円地文子さんと講演旅行」4-5. 平林たい子「円地文子さん」6-7. 「現代文学事典②⑤ 新現実主義」7. 「参考文献」8.
- 〔41 岡本かの子・林芙美子・宇野千代集〕 1965年2月 ②① [321-328].  
阿部静枝「若き日のかの子とのこと」1-2 [→ 【97系42】]. 徳田一穂「芙美子と秋聲」2-4 [→ 【97系39】]. 三宅艶子「宇野千代というひと」4-5 [→ 【97系42】]. 橋崎勤「三人の女流作家」5-7. 「現代文学事典⑨ 人道主義」7. 「参考文献」8.
- 〔42 小林秀雄集〕 1965年5月 ②⑤ [329-336]. ……⇨ 【97系43】 ⑭④.  
深田久弥「八捨九入」1-2. 篠田一士「無風のなかの小林文学」3-4. 村松剛「もう一つのランボオ論」4-5. 木村庄三郎「古人のような人」5-7. 「現代文学事典③ 戦後文学」7. 「参考文献」8.
- 〔43 井伏鱒二集〕 1966年3月 ③⑥ [337-344]. ……⇨ 【97系44】 ②⑤.  
中野好夫「はじめてあった井伏さん」1-2. 寺田透「井伏さんの虚実」2-4. 石井桃子「井伏さんのこと」4-5. 田代継男「弘光寺の和尚さん—「武州鉢形城」の周辺—」5-7. 「現代文学事典⑩ 家庭小説」7. 「参考文献」8.

- 〔44 武田麟太郎・島木健作・織田作之助集〕 1967年3月 50 [345-352].  
 ……………⇒ 【97系45】 75.  
 田宮虎彦「文士という小説家」1-2. 森山啓「島木健作のこと」2-4. 朝倉京「素顔の島木」4-6. 藤沢恒夫「織田作之助の思い出」6-7. 「参考文献」8.
- 〔45 尾崎士郎・火野葦平集〕 1967年9月 57 [353-360]. ……………⇒ 【97系46】 71.  
 神山潤さかきやま「馬込村の青春」1-2. 大井広介「尽きぬ回想」3-4. 宇野逸夫「『街』のころ」4-6. 真鍋呉夫「『桃太郎』のこと」6-7. 「参考文献」8.
- 〔46 丹羽文雄集〕 1964年9月 15 [361-368]. ……………⇒ 【97系48】 53.  
 永井龍男「ある最初」1-2. 井上友一郎「丹羽理事長」3-4. 水上勉「大きな掌<sup>て</sup>」4-5. 村松定孝「私の名作鑑賞—『柔媚の人』の昌と万里子—」5-7. 「現代文学事典⑬ 本格小説」7. 「参考文献」8.
- 〔47 舟橋聖一集〕 1964年4月 9 [369-376]. ……………⇒ 【97系49】 12.  
 舟橋和郎「若き日の兄」1-2. 河上徹太郎「舟橋君とのつき合い」2-4. 有馬稲子「口惜しい思い」4-5. 高橋義孝「私の名作鑑賞—『悉皆屋康吉』—」5-7. 「現代文学事典⑧ 民衆芸術論」7. 「参考文献」8.
- 〔48 石川達三集〕 1964年7月 13 [377-384]. ……………⇒ 【97系50】 38.  
 山村聡「石川さんの思い出」1-2. 金沢覚太郎「詩魂」2-4. 佐藤観次郎「『生きている兵隊』と石川氏」4-5. 久保田正文「私の名作鑑賞—『三代の矜持』の新しさ—」5-7. 「現代文学事典⑩ 戯作」7. 「参考文献」8.
- 〔49 伊藤整集〕 1965年4月 23 [385-392]. ……………⇒ 【97系51】 29.  
 奥野健男「文芸批評の第一人者」1-2. 磯田光一「反英雄主義の文学—『鳴海仙吉』について—」2-3. 北見恂吉「少年の旅」4-5. 佐々木基一「私の名作鑑賞—『鳴海仙吉』—」5-7. 「現代文学事典⑫ 文体」7. 「参考文献」8.
- 〔50 中山義秀・阿部知二集〕 1967年1月 48 [393-400]. ……………⇒ 【97系55】 73.  
 川崎長太郎「義秀さんのこと」1-2. 田邊孝治「中山義秀先生」2-4. 青地晨「あの頃の阿部先生」4-5. 山下肇「巨人の激情」5-7. 「現代文学事典④ 目的意識論争」7. 「参考文献」8.
- 〔51 永井龍男・田宮虎彦・梅崎春生集〕 1967年5月 53 [401-408].  
 山本蓬郎「師運」1-3. 丹羽文雄「田宮君のこと」3-4 [→ 【97系64】]. 中尾彰「梅崎春生さんと私」4-6 [→ 【97系64】]. 遠藤周作「蓼科の梅崎さん」6-7 [→ 【97系

- 64]. 「現代文学事典④ 観念小説」7 [→ 【97系64】]. 「参考文献」8.
- 『52 石川淳集』 1966年6月 ④ [409-416]. ……⇨ 【97系57】 ⑧.  
菊池章一「車窓風景」1-2. 千田是也「石川先生の戯曲をめぐって」2-4. 江川卓「ソビエトの石川さん」4-5. 吉田健一「私の名作鑑賞—「西游日録」—」6-7. 「現代文学事典③ 象徴派」7. 「参考文献」8.
- 『53 坂口安吾・井上友一郎・檀一雄集』 1967年8月 ⑤ [417-424].  
田辺茂一「わが伯楽」1-2. 花田清輝「一宿一飯」2-4. [以上→ 【97系58】]. 田宮虎彦「井上友一郎君の個性」4-5. 木山捷平「旅行余話」5-7. [以上→ 【97系61】]. 「現代文学事典⑥ 「文戦」派」7 [→ 【97系58】]. 「参考文献」8.
- 『54 太宰治集』 1965年1月 ② [425-432]. ……⇨ 【97系59】 ⑨.  
木山捷平「初対面の太宰」1-2. 小松伸六「太宰巡礼者」2-4. 佐伯彰一「ウィリアムズと太宰」4-5. 古谷綱武「私の名作鑑賞—「満願」—」5-7. 「現代文学事典⑧ 教養派」7. 「参考文献」8.
- 『55 野間宏集』 1966年12月 ④ [433-440]. ……⇨ 【97系65】 ⑩.  
中村真一郎「野間宏の使命」1-2. 平田次三郎「ある夕景」3-4. 井上正蔵「野間にかんするノート」4-6. 矢野雄雄「野間宏との交友」6-7. 「現代文学事典③ 第四階級の文学」7. 「参考文献」8.
- 『56 椎名麟三集』 1966年8月 ② [441-448]. ……⇨ 【97系66】 ⑧.  
赤岩栄「椎名さんの作品」1-2. 遠藤周作「椎名さんの微笑」2-4. 埴谷雄高「椎名麟三の心臓病」4-5. 奥野健男「「深夜の酒宴」のころ」5-7. 「現代文学事典⑤ コント」7. 「参考文献」8.
- 『57 武田泰淳集』 1967年4月 ⑤ [449-456]. ……⇨ 【97系67】 ⑩.  
円地文子「武田さんの作品」1-2. 深沢七郎「武田先生と私」2-3. 海老原光義「武田さんのこと」3-5. 進藤純孝「私の名作鑑賞—「異形の者」—」5-7. 「現代文学事典④ ダダイズム」7. 「参考文献」8.
- 『58 三島由紀夫集』 1963年12月 ④ [457-464]. ……⇨ 【97系68】 ⑩.  
奥野健男「三島由紀夫の世界」1-2. 木村徳三「初期の三島由紀夫さん」2-4. 吉田健一「三島由紀夫氏と鉢の木会」4-5. 山本健吉「私の名作鑑賞—「近代能楽集」—」5-7. 「現代文学事典④ 一元描写」7. 「参考文献」8.
- 『59 大岡昇平集』 1966年10月 ④ [465-472]. ……⇨ 【97系69】 ⑧.

- 横山隆一「作家の作曲」1-2. 吉田秀和「大岡さんの文学」2-4. 小川幹雄「レイテ島捕虜収容所の思い出」4-6. 中原忠郎「懐中電燈」6-7. 「参考文献」8.
- 『60 井上靖集』 1963年10月 ② [473-480]. ……………⇒ [97系70] ⑥.  
森田達「兄靖のこと」1-2. 岩村忍「楼蘭の河龍」3-4. 高柳光寿「淀どの日記」の周辺」4-5. 吉田精一「私の名作鑑賞—「天平の薨」—」5-7. 「現代文学事典② 転向文学」7. 「参考文献」8.
- 『61 堀田善衛・阿川弘之・遠藤周作・大江健三郎集』 1968年3月 ④ [481-488].  
木下順二「堀田善衛の中の二つの要素について」1-2. 吉行淳之介「「笠碁」の仲」2-4. 三浦朱門「我が父・遠藤周作」4-6. 羽仁進「語りつくせぬもの」6-7. 「参考文献」8.
- 『62 島尾敏雄・安岡章太郎・庄野潤三・吉行淳之介集』 1967年6月 ⑤ [489-496].  
佐々木孝「島尾敏雄の中の東北」1-2. 石浜恒夫「安岡と大阪」3-4. 横田瑞穂「庄野君のこと、その作品のこと——愛読者として——」4-6. 原田康子「「寝台の舟」の頃」6-7. 「参考文献」8.
- 『63 現代名作集（一）』 1967年11月 ⑤ [497-504].  
中村星湖「明治文壇の思い出」1-3. 野田宇太郎「杳太郎と「和泉屋染物店」」3-5. 瀬戸内晴美「「田村俊子」余話」5-7. 「現代文学事典④ 第二芸術論」7 [→ [97系61]]. 「参考文献」8.
- 『64 現代名作集（二）』 1968年2月 ⑥ [505-512].  
河口清巳「異数の人有島生馬先生」1-2. 高橋新吉「宮嶋資夫<sup>すけお</sup>の断面」3-4. 田中千禾夫「ハイカラな古武士」4-6. 浅見淵「「鳥羽家の子供」に関連して」6-7. 「参考文献」8.
- 『65 現代名作集（三）』 1968年5月 ⑦ [513-520].  
浅見淵「昭和十年代」1-4. 巖谷大四<sup>いわや</sup>「戦争が終ったころ」4-7. 「参考文献」8.
- 『66 現代名作集（四）』 1968年6月 ⑧ [521-528].  
進藤純孝「昭和三十一年のころ」1-4. 小松伸六「現代女流作家論」4-7. 「参考文献」8.
- 『67 現代詩集』 1967年12月 ⑩ [529-536].  
伊藤信吉「詩人たちの土地」1-5. 富岡多恵子「日本語の詩」5-7. 「参考文献」8.
- 『68 現代歌集』 1968年5月 ⑥ [537-544].  
杉浦明平「短歌とわたし」1-4. 塚本邦雄「短歌における「現代」」4-7. 「参考文献」8.

『69 現代句集』 1968年7月 ㊥ [545-552].

村野四郎「俳句と私」1-4. 楠本憲吉「問題の句集・話題の句集」5-7. 「参考文献」8.  
『別冊 現代日本文学史』 吉田精一執筆の222頁で、初回配本時に月報無しで配られた。

次号以降に続く